障害診断書

お 願

い

V

ま

す

			男						
1.	氏 名		· 女	2. 4	生年月日		年	月	日
3.	障害の種類	 両眼の視力を全く永久に失ったもの 言語の機能を全く永久に失ったもの そしゃくの機能を全く永久に失ったもの 両上肢を手関節以上で失ったもの 			8. 受	傷発病)日	年医師推定	月 ・ 患者	日 申告
		5. 両下肢を足関節以上で失ったもの6. 1上肢を手関節以上で失いかつ、 1下肢を足関節以上で失ったもの7. 両上肢の用を全く永久に失ったもの			9. 初	診日	年	月	日
		8. 両下肢の用を全く永久に失ったもの9. 10手指を失ったかまたはその用を全く 永久に失ったもの10. 両耳の聴力を全く永久に失ったもの			10.入	院日	年	月	B
4.	傷病名				11. 退	院日	年	月	П
5.	4の原因		医師		- 現	在入院中	年	月	B
6.	障害の部位		息者	甲台)	12. 終 現在治療中	診 日	年	月	日日
0.	体旦へ加い				現仕冶漿甲	(当阮•他阮)	#	月	Ħ
7.	今回の受傷 の の の の の の の の の の の の の の に あ に た う に う た う た う た う た う た う た う た う た	有 →部位と障害内容 無	13.	前	医無無	→住所·氏:	名		
	治療内手術を				手術日		年 月	日	
15. 視力障害 16. 聴力障		ださい。 500Hz 1000Hz 右 () dB () dB (た () dB () dB ()) 2000Hz) d	機 B 能	型由(7 (下記A- A.通常	~Cのうち該当 の飲食物が食	適の場合は 検査(計測 する項目に〇 べられる 準ずる程度の飲	印をしてく	
害 18.		(更力指失)	年月	日 害	. / - / -	としか摂取できれ	ない 検査(計測	11)日 年	月日
18. 言語機能の障害	(程 度) A.言語機能 B.言語機能 語による意	具目に〇印をしてくたさい) のそう失(音声語による意志の疎通が全くできない) の著しい障害(身振り、書字その他の補助動作がなくては 、志の疎通が困難である) の障害(簡単な単語の発語により意志の疎通がかろうじて			b.中枢性失 c.構音障害	(1.口唇音 2	.歯舌音 3.口	ます	こう頭音) 月 日

四肢、手指、足指の切断の場合は、切断箇所にはっきりと線を入れてください。 四肢の完全運動麻痺の場合は、その部位を斜線で示してください。 19. 下肢短縮の場合は、その程度[cm]を記入してください。 運 4 3 2 1 (左足骨) (右足骨) 動 (左手骨) (右手骨) 訂正の場合、訂正印を必ず押印願います。○)印はいずれかに○印をお願いします。関節の運動範囲については、自動運動範囲をご記入願関。20項については、障害のある場合に記載して下され 麻 痺 近位指節間関節 - 肢短縮〔 欠損 肢短縮[短縮 リスフラン関節・ 3 cm cm 年 検査(計測)日 月 第2指 第1指 第3指 第4指 第5指 20. (手指)·(足指) * ▼屈曲度 伸展度 ▼屈曲度 伸展度 ▼屈曲度 伸展度 ▼屈曲度 遠位指節間関節 指 伸展度 🖊 屈曲度 近位指節間関節 指 ^手 指節間関節 動 障害 手指・足指 (自動 遠位指節間関節 ▶ 屈曲度 伸展度 運 近位指節間関節 動 範 囲 21. MMT(¾) 伸展度~屈曲度 内転度~外転度 内旋度~外旋度 儿 肢 肩 関節 関 \sim \sim \sim 節 \sim \sim \sim 肘 関節 \mathcal{O} \sim \sim \sim 運 \sim 動 \sim 手 関節 障 \sim \sim 害 \sim \sim \sim 股 関節 自 \sim \sim 動 膝 関節 運 動 \sim \sim \sim 足 範 関節 \sim \sim \sim 囲 ※MMT(徒手筋力テスト)欄には、結果を0~5の数値にてご記入ください。 22. 回復の可能性と症状の固定についての意見 上記の障害状態を診断された日 年 日 月 症状の固定時期 年 日頃 月 年 月 日 上記のとおり診断します。 所 在 地 病院又は診療所等の 名 (EII) 医師氏名

平成21年4月改訂